

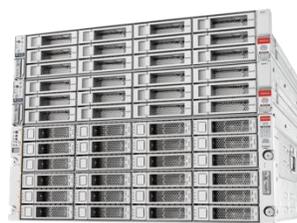
Oracle Database Appliance X9-2-HA

Oracle Database Appliance X9-2-HA は、高可用性データベース・ソリューションの導入、管理、およびサポートを簡素化することで、時間とコストを節約する Oracle Engineered System です。世界でもっとも人気のあるデータベース、Oracle Database 用に最適化された Oracle Database Appliance X9-2-HA は、ソフトウェア、コンピューティング、ストレージ、ネットワークのリソースを統合して、幅広いカスタムおよびパッケージ化されたオンライントランザクション処理(OLTP)、インメモリ・データベース、データウェアハウスのアプリケーションに対応する高可用性データベース・サービスを提供します。オラクルがすべてのハードウェア・コンポーネントとソフトウェア・コンポーネントを設計、サポートし、自動化とベスト・プラクティスが組み込まれた信頼できるセキュアなシステムをお客様に提供します。高可用性データベース・ソリューションの導入で価値創出までの期間が加速化することに加えて、Oracle Database Appliance X9-2-HA によって Oracle Database ライセンス・オプションを柔軟に選択でき、保守とサポートに関わる運用コストを軽減できます。

完全に冗長化な統合システム

情報に 24 時間 365 日アクセスできるようにし、予期しない停止時間と計画停止時間からデータベースを保護することは、多くの組織にとって課題になる場合があります。確かに、適切なスキルとリソースが社内にはない場合は、データベース・システムに手動で冗長性を組み込むことにはリスクが伴い、エラーが誘発されることがあります。Oracle Database Appliance X9-2-HA は作業を簡素化するように設計されており、そのようなリスクの要素と不確実性を軽減することで、お客様が自社データベースの可用性をさらに向上できるように支援します。Oracle Database Appliance X9-2-HA のハードウェアは、2 台の Oracle Linux サーバーと 1 台のストレージ・シェルフを収容する 8U のラックマウント型システムです。各サーバーは 2 基の 16 コア、インテル® Xeon® S4314 プロセッサ、512 GB のメモリを搭載しており、デュアルポートの 25 ギガビット・イーサネット(GbE) SFP28 またはクアドポートの 10GBase-T PCIe ネットワーク・アダプタのいずれかを選択して外部ネットワーク接続に対応し、最大 2 つのデュアルポートの 25GbE SFP28 またはクアドポートの 10GBase-T PCIe ネットワーク・アダプタを追加するオプションを提供します。2 台のサーバーはクラスタ通信用の 25GbE インターコネクで集約され、直接接続された高性能な SAS ストレージが共有されます。ベース・システムのストレージ・シェルフの一部には、データ・ストレージ用に 6 台の 7.68TB のソリッド・ステート・ドライブ(SSD)が収容され、物理ストレージ容量は合計 46TB になります。

Oracle Database Appliance X9-2-HA は Oracle Database Enterprise Edition または Oracle Database Standard Edition を実行しているため、お客様はシングル・インスタンス・データベースを実行するか、Oracle Real Application Clusters(Oracle RAC)または Oracle RAC One Node を使ってクラスタ化データベースを実行して"アクティブ/アクティブ"または"アクティブ/パッシブ"のデータベース・サーバー・フェイルオーバーに対処できます。またディ



Oracle Database Appliance
X9-2-HA

おもな機能

- 完全に統合された完全なデータベース およびアプリケーション・アプライアンス
- Oracle Database Enterprise Edition および Standard Edition
- Oracle Real Application Clusters または Oracle Real Application Clusters One Node
- Oracle ASM および ACFS
- Oracle Appliance Manager
- ブラウザ・ユーザー・インタフェース (BUI)
- 統合されたバックアップおよび Data Guard
- Software Development Kit(SDK) および REST API
- Oracle Cloud Integration
- Oracle Linux および Oracle Linux KVM
- Hybrid Columnar Compression の圧縮比 10 倍から 15 倍
- 2 台のサーバー
- 最大 2 台のストレージ・シェルフ
- ソリッド・ステート・ドライブ(SSD)とハード・ディスク・ドライブ(HDD)

ザスタ・リカバリ用のスタンバイ・データベース構成をシンプルにするために、Oracle Data Guard もアプライアンスに統合されています。

オプションのストレージ拡張

Oracle Database Appliance X9-2-HA では、データ・ストレージ用に最大 18 台の SSD またはハード・ディスク・ドライブを追加することで、ベース・システムに付属のストレージ・シェルフを柔軟に拡張できます。フル搭載したストレージ・シェルフの場合、データ・ストレージ用に 24 台の SSD または 6 台の SSD、および 18 台の HDD のいずれかの構成で収容でき、物理ストレージ容量はそれぞれ合計 184 TB の SSD または 46 TB の SSD、324 TB の HDD になります。オプションで 2 台目のストレージ・シェルフも追加すると、システムのストレージ容量を倍にすることができます。また、アプライアンス外部にストレージを拡張する場合は、外部 NFS ストレージがオンライン・バックアップ、データ・ステージング、または追加のデータベース・ファイル用にサポートされています。

簡単な導入、管理、サポート

データベースの導入と管理を容易にするために、Oracle Database Appliance は Appliance Manage ソフトウェアを搭載して、システムの管理と診断を簡素化します。Appliance Manager の機能により、導入プロセスが大幅に簡素化され、オラクルのベスト・プラクティスに沿ったシステムとデータベースが構成されます。ブラウザ・ユーザー・インターフェースはすべての構成パラメータを素早く収集して、簡単な 2、3 のステップで効率的にシステムとデータベースのプロビジョニングを実行します。また、Appliance Manager は、このアプライアンス専用でオラクルが設計、テストしたパッチ・バンドルを使用して、ファームウェアとソフトウェアすべてを含むアプライアンス全体にパッチを適用することで、システム・メンテナンスを劇的に簡素化します。ブラウザ・ユーザー・インターフェースで適切なパッチ・バンドルを選択して検証し、システム全体を更新するだけです。データベースのバックアップとリカバリは Appliance Manager に統合され、ローカルでのバックアップ、外部ストレージへのバックアップ、またはブラウザ・ユーザー・インターフェースからの直接的な Oracle Cloud へのバックアップのオプションがあります。Appliance Manager はシステムとデータベースの情報も追跡し、その情報をブラウザ・ユーザー・インターフェースに表示します。組込み診断機能が継続的にアプライアンスを監視し、コンポーネント障害や構成の問題、ベスト・プラクティスからの逸脱を検出します。また、Oracle Database Appliance の Auto Service Request (ASR) 機能により、Oracle サポートのサービス・リクエストを自動的に記録して、問題解決を迅速化できます。

柔軟な Oracle Database ソフトウェア・ライセンス

Oracle Database Appliance X9-2-HA は、Oracle Database Enterprise Edition と Standard Edition の両方をサポートします。Oracle Database Enterprise Edition の強化された機能セットが必要な企業環境は、独自のキャパシティオン デマンド・データベース・ソフトウェアのライセンス・モデルを使用して、ハードウェアをアップグレードすることなく、利用中のプロセッサ・コアを素早く拡張できます。プロセッサ・コア最小 2 個のシステムとライセンスでデータベース・サーバーを実行し、徐々に最大 64 個のプロセッサ・コアに拡張していくことができます。そのため、企業のビジネス・ユーザーが求めるパフォーマンスと信頼性を提供でき、ソフトウェアの支出費をビジネスの成長に合わせて調整できます。エンタープライズ級の機能が不要な小規模企業、事業部門、ブランチ・オフィスの環境の場合は、Oracle Database Standard Edition のライセンスを取得して、Oracle Database Appliance のメリットを実現することでコストを削減し、生産性を向上させることができます。

仮想化による包括的なソリューション

おもな利点

- 世界第 1 位のデータベース
- シンプル、最適化済み、低価格
- 幅広いアプリケーションに対応する高可用性データベース・ソリューション
- 簡単な導入、パッチ適用、管理、診断
- 簡素化されたバックアップと災害復旧
- 計画停止時間と計画外停止時間の軽減
- 費用対効果に優れた統合プラットフォーム
- キャパシティオンデマンドのライセンス
- データベーススナップショットにより、テスト環境と開発環境を迅速にプロビジョニング
- 単一ベンダーのサポート

仮想化により複数の物理サーバーを Oracle Database Appliance の仮想マシンとして統合することで、IT コストの削減とリソースの有効活用が可能になります。データセンターのスペースと電力、冷却コストを削減し、ワークロードを分離することで、アプリケーションやデータベースのサービス品質を向上させることができます。

Oracle Database Appliance は、内蔵のユーザー・インタフェースを使用して迅速にデプロイできる 2 種類の KVM(Kernel-based Virtual Machines)をサポートしています。アプリケーション KVM とデータベース KVM(通称:データベースシステム)です。アプリケーション KVM では、アプリケーションのインストールとメンテナンスはお客様が管理し、データベース KVM では、Oracle Database Appliance が Oracle Database のインストールとメンテナンスを管理します。

KVM データベースシステムは、Oracle Database ライセンスのハードパーティショニングを可能にし、各 KVM データベースシステムは、KVM データベースシステム作成時に自動的に割り当てられる独自の CPU プールを持つか、CPU プールを共有することができます。

Oracle Database Appliance は、組み込みのユーザー・インタフェースにより、KVM データベースシステムの管理を簡素化します。Oracle Database Appliance X9-2-HA には、アプリケーション KVM 用の高可用性機能、自動再起動、およびフェイルオーバーも組み込まれています。

仮想化による Solution-In-A-Box

Oracle Database Appliance X9-2-HA は、顧客と ISV が 1 台の Oracle Database Appliance にデータベースとアプリケーションのワークロードを迅速に導入できるようにするものです。仮想化により、データベースとアプリケーションのインスタンス間の分離が可能になり、既に完全に統合されたデータベース・ソリューションにさらなる柔軟性が加わります。顧客と ISV は、Oracle KVM のハードパーティショニングを活用することで、リソースを効率的に活用し、複数のワークロードに対してキャパシティ・オンデマンド・ライセンスを活用できる完全なソリューションから利益を得ることができます。

まとめ

Oracle Database Appliance X9 モデル・ファミリーは、シンプルで最適化された、手頃な価格のデータベース・ソリューションを求められるお客様に対して、あらゆる組織に最適化された専用ハードウェアおよびソフトウェアの選択肢を提供します。Oracle Database Appliance は、すべてのテクノロジー・スタック・レベルにわたって設計されているため、導入とアップグレードが容易で、より効率的な管理を実現します。Oracle Database Appliance X9 モデル・ファミリーを使用することで、お客様は新しいサービスを迅速に市場に投入しながら、サービス・レベルを向上させることができ、企業にビジネス価値を付加することができます。

Oracle Database Appliance X9 モデル・ファミリーの詳細については、

www.oracle.com/oda をご覧ください。

Oracle Database Appliance X9-2-HA の仕様

アーキテクチャ	
システム	<ul style="list-style-type: none">システムあたり 2 台の 2U X9-2L サーバーと 1 台の 4U DE3-24C ストレージ・シェルフオプションの 2 台目のストレージ・シェルフを追加してストレージを拡張することが可能
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none">サーバーあたり Intel® Xeon® プロセッサ x2

	<ul style="list-style-type: none"> Intel® Xeon® Silver 4314 2.4 GHz, 16コア, 135ワット, XCC, 24 MB L3 キャッシュ
キャッシュ	<ul style="list-style-type: none"> レベル1: コアあたり32 KB 命令及び32 KB データL1 キャッシュ レベル2: コアあたり1 MB の共有型L2 キャッシュ(データと命令) レベル3: コアあたり最大1.375 MB の共有型インクルーシブL3 キャッシュ
メイン・メモリ	<ul style="list-style-type: none"> サーバーあたり512GB (32GB×16) オプションのメモリ拡張によりサーバーあたり最大1TB (32GB×32) 両方のサーバーに同じ容量のメモリを搭載すること
サーバー・ストレージ	<ul style="list-style-type: none"> オペレーティング・システムとOracle Grid Infrastructure (GI) ソフトウェア用に、サーバーあたり2 台 の内部240 GB M.2 SSDs (ミラー化)

ストレージ (ストレージ・シェルフ DE3-24C)

高パフォーマンス

データ・ストレージ	数量	生容量	使用可能な容量 (2重ミラー化)	使用可能な容量 (3重ミラー化)
ベース・システム	6 x 7.68 TB SSD	46 TB	17.8 TB	11.9 TB
SSD x6 追加	12 x 7.68 TB SSD	92 TB	35.6 TB	23.7 TB
SSD x6 追加	18 x 7.68 TB SSD	138 TB	53.4 TB	35.6 TB
フル・シェルフ	24 x 7.68 TB SSD	184 TB	71.2 TB	47.5 TB
ダブル・シェルフ	48 x 7.68 TB SSD	368 TB	142.5 TB	95.0 TB

大容量

フル・シェルフ (SSD とHDD)	6 x 7.68 TB SSD	46 TB	17.8 TB	11.9 TB
	18 x 18 TB HDD	324 TB	125.2 TB	83.5 TB
ダブル・シェルフ (SSD とHDD)	12 x 7.68 TB SSD	92 TB	35.6 TB	23.7 TB
	36 x 18 TB HDD	648 TB	250.5 TB	167.0 TB

- ベース・システムのストレージ・シェルフは6 台のSSD を含みます
- SSD は6 台単位で追加する必要があります
- ストレージ・シェルフ全体を埋めるために、ハード・ディスク・ドライブ(HDD)を18 台単位で追加する必要があります
- ストレージ拡張用の2 台目のストレージ・シェルフ(オプション)はディスクをすべて搭載している必要があります
- ストレージ生容量はストレージ業界の慣習に基づいて、1TB が1,000⁴バイトに相当します
- 用可能な容量は、1TB を1,024⁴とし、ディスク障害時の冗長性を再構成するために必要な予備領域15%を確保しての計算となります

インターフェース

標準 I/O

- GbE ポートx1 及びシリアルRJ45 port x1 (マネージメントポート)
- サーバーあたりUSB 3.0 ポートx1 (背面x1)
- PCIe slot 1: デュアルポート25 GbE (SFP28)カード(インターコネク)
- PCIe slot 2: デュアルポート外部SAS HBA
- PCIe slot 4: クワッドポート10GBase-T カードまたは デュアルポート10/25GbE (SFP28)カードを選択(オプション)
- PCI3 slot 6: クワッドポート10GBase-T カードまたは デュアルポート10/25GbE (SFP28)カードを選択
- PCIe slot 8: クワッドポート10GBase-T カードまたは デュアルポート10/25GbE (SFP28)カードを選択(オプション)
- PCIe slot 9: デュアルポート外部 SAS HBA
- 注意: 指定されていないスロットへのPCIe カード追加はできません

システム管理

インターフェース

- 専用の10/100/1000 M Base-T ネットワーク管理ポート
- 帯域内、帯域外およびサイドバンドのネットワーク管理アクセス
- RJ45 シリアル管理ポート

サービス・プロセッサ	<p>Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM) の機能</p> <ul style="list-style-type: none"> リモート・キーボード、ビデオ、マウスのリダイレクト コマンドライン、IPMI、ブラウザのインターフェースを介した完全リモート管理 リモート・メディア機能 (USB、DVD、CD、ISO イメージ) 高度な電源管理および監視 Active Directory、LDAP、RADIUS のサポート デュアル Oracle ILOM フラッシュ 仮想メディアの直接リダイレクション
監視	<ul style="list-style-type: none"> 包括的な障害検知および通知 帯域内、帯域外、およびサイドバンドの SNMP 監視 v3 Syslog および SMTP アラート Oracle automated service request (ASR) による、おもなハードウェア障害に対するサービス・リクエストの自動作成

ソフトウェア	
オラクル・ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> Oracle Linux (ブレイクストール) Oracle Linux KVM (ブレイクストールおよびオプション) Appliance Manager (ブレイクストール)
Oracle Database ソフトウェア (個別ライセンス)	<ul style="list-style-type: none"> Oracle Database ソフトウェアの選択肢。可用性レベルに応じて選択可 <ul style="list-style-type: none"> Oracle Database 21c Enterprise Edition, Standard Edition 2 Oracle Database 19c Enterprise Edition, Standard Edition 2 Oracle Database 12c Enterprise Edition Release 1, Release 2, Standard Edition 2 Oracle Real Application Clusters One Node Oracle Real Application Clusters 以下をサポート: <ul style="list-style-type: none"> Oracle Database オプション Oracle Enterprise Manager Management Packs for Oracle Database Enterprise Edition
Oracle Database Enterprise Edition に対するキャパシティ・オンデマンド・ライセンス	<ul style="list-style-type: none"> サーバーあたり 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28, 30, 32 コア 注: 両方のサーバーで同じ数のコアを有効にする必要がありますが、ソフトウェア・ライセンスは高可用性の要件に応じてサーバーのいずれか 1 台または両方に付与できます

ORACLE DATABASE APPLIANCE ソフトウェアの機能	
管理	
Appliance Manager	Oracle Database Appliance ソフトウェアインターフェースは、Oracle Database Appliance の導入、管理、およびサポートを簡素化。
管理インターフェース	コマンドラインインターフェース (CLI)、Web ブラウザインターフェース (BUI)、REST/API。
データベース・テンプレート	OLTP、DSS、In-Memory などのワークロードに対応するため、あらかじめ定義された (オラクルのベストプラクティスのデータベースパラメータに基づく) データベース・テンプレートで、最高のパフォーマンスを発揮できるようサイズを調整。
キャパシティ・オンデマンド・ライセンス	必要なプロセッサコア (最小 2 コア) のみを有効にし、ビジネスニーズの変化に応じてプロセッサ・コアを拡張できるデータベースライセンス機能。
1 つのパッチでスタック全体をカバー	最新の Oracle Database RU、Oracle GI、Oracle Linux、ハードウェアのファームウェアアップデートを含むスタック全体に対して、1 つのパッチでカバー。また Out-of-Cycle Database Patches の適用もサポート。
統合 KVM 仮想化	Linux カーネルベースの仮想マシン (KVM) により、Oracle Database や Applications の仮想化が可能。Oracle Database のライセンスに対応したハードパーティショニングをサポート。
CPU プール	CPU リソースの管理を可能にし、データベースや VM に専用の CPU リソースを保証することで QoS (Quality of Service) を提供。(注: CPU プールは Oracle Database のライセンスには使用できません。)
自動化されたサービス性	Oracle Auto Service Request (ASR) を通じて特定の障害が発生した場合に、Oracle Database Appliance のサービス・リクエストを自動的に起票し、問題をより迅速に解決。
自動モニタリング	ODA ハードウェアモニタリングツールは、Oracle Database Appliance サーバーのさまざまなハードウェア・コンポーネントのステータスを表示。コマンドを実行したノードに関する情報のみを報告。
自動診断	Oracle Database Appliance は、診断データを収集・分析する Oracle Autonomous Health Framework を使用しており、システムの健全性に影響を与える前に問題をプロアクティブに特定。

ODA ソフトウェア開発キット (SDK)	ODA SDK は、ODA データベース・サービスをプログラムから呼び出すための ODA REST および Java API を一般に公開。
Oracle Enterprise Manager (OEM) プラグイン	ODA EM Plug-In は、1 台または複数の Oracle Database Appliance の詳細な監視をサポートし、ODA グループ全体で実用的なコンポーネントレベルの分析を提供。
高可用性	
自動デプロイメント RAC	Oracle RAC(Real Application Cluster)の統合構成により、90 分以内に RAC システムを導入可能。
Standard Edition High Availability (SEHA)の統合	Standard Edition High Availability (SEHA) は、Oracle Database 19c Standard Edition 2 データベースに対して、Oracle Grid Infrastructure を使用してクラスターベースのフェイルオーバーを提供 (ODA HA モデルのみ)。
データ保護	
自動データベース・バックアップ (Cloud へのバックアップ含む)	Oracle Cloud Infrastructure オブジェクト・ストレージまたは、内部 FRA/ 外部 FRA への Oracle Database のバックアップ操作をシンプルに行うための RMAN 機能が統合。異なるレベル(最新、PITR、SCN など)へのリストアも可能。
統合 Data Guard 構成	Oracle Database Appliance は、ODACLI コマンドによるクライアントインターフェースを提供し、高可用性、データ保護、災害復旧のための Oracle Data Guard を簡単に設定、管理することが可能。
データベース・セキュリティ評価ツール(DBSAT)の統合	ブラウザ・ユーザー・インターフェイス (BUI)から直接 DBSAT レポートを実行できます。Oracle データベース・セキュリティ評価ツール(DBSAT) は、データベースの構成、操作、または実装によってリスクが生じる領域を特定し、それらのリスクを軽減するための変更とコントロール。
システムディスク・バックアップ	Oracle Database Appliance バックアップ・リカバリー (ODABR) を使用してシステムディスクをバックアップし、パッチ適用作業に失敗した場合に簡単に復元。ODABR は、システムディスクをパッチ適用前の状態に復元。
その他データ保護機能	<ul style="list-style-type: none"> 重要なデータベース・ファイルを優先的に復旧 破損したディスクデータの自動修復
データ管理	
ストレージ管理機能を内蔵	統合 ASM がストレージ管理を簡素化し、ユーザーがオプションを選択するだけで Appliance Manager が自動的に ASM を設定。
データベースクローン機能の統合	統合された ACFS Snapshots を使用した迅速かつ効率的なデータベースコピーにより、アプリケーションの開発およびテスト用のデータベース環境をプロビジョニング。
Hybrid Columnar Compression (HCC)	Oracle Database で可能な最高レベルのデータ圧縮を可能にし、多くの場合、10 倍から 15 倍の圧縮率を実現。特に分析ワークロードでは、I/O の削減により大幅なコスト削減とパフォーマンスの向上を実現。(ODA SW 18.8 以降、および Oracle EE ライセンスが必要)。
セキュリティとコンプライアンス	
堅牢性強化	<ul style="list-style-type: none"> インストールされるパッケージは最小限にて構成され、不要なパッケージはインストールされません。 Oracle Database Appliance のノードでは、必須サービスのみが有効化。 オペレーティング・システムのユーザー監査 NTP や SSH などのサービスをセキュアに設定
セキュリティ機能	<ul style="list-style-type: none"> アイソレーションポリシー データへのアクセス制御 暗号化サービス 監視と監査 Oracle Database 向け統合監査 Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)によるセキュアな管理
暗号化	バックアップとリストアを含むデータベースライフサイクル管理のための統合された TDE サポート (Oracle Database Transparent Data Encryption [TDE] は Advanced Security Option ライセンスが必要。)
マルチユーザーアクセス	異なるロールを持つ複数のユーザーを作成することにより、他のユーザーが作成したリソースへのアクセスを制限し、実行できる操作のセットを制限。
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> FIPS 140-2 レベル 1 対応 STIG (セキュリティ・テクニカル・ガイド)セキュリティ監査スクリプト 安全なデータの消去
Adaptive Classification and redaction (ACR)	ホスト名、IP および MAC アドレス、Oracle Database 名、テーブルスペース名、トレースファイルの REDO およびブロックダンプに漏れる可能性があるユーザーデータなど、機密性の高い診断データのサンタイズが可能。
一部の機能は Oracle Database Enterprise Edition に固有のものであり(Data Guard、TDE など)、対応するライセンスが必要です。その他の機能は、Oracle Database Enterprise Edition (HCC など)または Standard Edition (SEHA など)のいずれかのライセンスに含まれています。詳細については、ODA の営業担当者にご相談ください。	

動作環境	
環境温度、湿度、高度	<ul style="list-style-type: none"> 動作時温度: 5 ~ 35°C (41 ~ 95°F) 非動作時温度: -40 ~ 70°C (-40 ~ 158°F) 動作時相対湿度: 10 ~ 90% (結露なし) 非動作時相対湿度: 最大 93% (結露なし) 動作時高度: 最大 3,000m* (9,840 フィート)、高度 900m 以上では 300m 上昇するごとに最高周辺温度が 1°C 低下 (*設置の高度を 2,000m (6,560 フィート) に制限する法規制のある中国を除く) 非動作時高度: 最大 12,000m (39,370 フィート) 騒音: 8.1 ベル (A 特性、動作時)、5.8 ベル (A 特性、アイドル時) <p>オラクル機器や個人用保護装置の設置場所の騒音レベル規制については、各国の規制を確認してください。</p>

電力	
電源	<ul style="list-style-type: none"> 1,200 ワットのホットスワップ対応冗長電源*2 (定格効率 96%) <ul style="list-style-type: none"> 定格線間電圧: 100 ~ 240VAC 定格入力電流: 100 ~ 127VAC 10A、200 ~ 240VAC 7A ストレージ・シェルフあたり 580 ワットのホットスワップ対応冗長電源*2 (定格効率 88%) <ul style="list-style-type: none"> 定格線間電圧: 100 ~ 240 VAC 定格入力電流: 100VAC 8A および 240VAC 3A
HA サーバー 2 台構成 (最大メモリ搭載時)	<ul style="list-style-type: none"> 最大消費電力: 1,120W, 3,822 BTU/Hr アクティブ・アイドル時の消費電力: 516W, 1,760 BTU/Hr
ストレージ・シェルフ (DE3-24C: 24 x 7.68 TB SSDs)	<ul style="list-style-type: none"> 最大消費電力: 449W, 1,529 BTU/Hr 標準消費電力: 276W, 940 BTU/Hr
ストレージ・シェルフ (DE3-24C: 6 x 7.68 TB SSDs, 18 x 18 TB HDDs)	<ul style="list-style-type: none"> 最大消費電力: 434W, 1,479 BTU/Hr 標準消費電力: 271W, 925 BTU/Hr

物理仕様	
寸法と重量	<ul style="list-style-type: none"> 高さ: サーバーあたり 86.9 mm (3.4 in.)、ストレージ・シェルフあたり 175 mm (6.9 in.) 幅: サーバーあたり 445.0 mm (17.5 in.)、ストレージ・シェルフあたり 483 mm (19.0 in.) 奥行: サーバーあたり 759.4 mm (29.9 in.)、ストレージ・シェルフあたり 630 mm (24.8 in.) 重量: サーバーあたり 28.6 kg (63 lb.)、ストレージ・シェルフあたり 38 kg (84 lbs.)
付属インストール・キット	<ul style="list-style-type: none"> ラックマウント・スライドルール・キット ケーブル管理アーム

規定・認証	
認定規格 ¹	<ul style="list-style-type: none"> NRTL (北米) CE (欧州連合 (EU)) 国際 CB スキーム BIS (インド) BSMI (台湾) CCC (中国) EAC (EAEU、ロシア) KC (韓国) RCM (オーストラリア) VCCI (日本) UKCA (UK)
<p>¹ すべての規格および認証は、最新の公式版に対応しています。その他の詳細については担当営業にお問い合わせください。その他の国の規制/認証が適用される場合があります。</p> <p>規制遵守の情報については、製品のドキュメントライブラリ (https://docs.oracle.com) にある "Safety and Compliance Guide" を参照してください。</p>	

お問い合わせ窓口

+1.800.ORACLE1 までご連絡いただくか、oracle.com をご覧ください。
北米以外の地域では、oracle.com/contact で最寄りの営業所をご確認いただけます。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2022, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD Opteron、AMD ロゴ および AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。2022年6月